

平成28年度 自己点検・自己評価結果

目次

(1)	教育理念・目標	1
(2)	学校運営	2
(3)	教育活動	3
	福祉心理学科	3
	介護福祉学科	5
	作業療法学科	7
	理学療法学科	9
	看護学科	11
	助産学科	13
	歯科衛生学科	15
(4)	学修成果	17
	福祉心理学科	17
	介護福祉学科	18
	作業療法学科	19
	理学療法学科	20
	看護学科	21
	助産学科	22
	歯科衛生学科	23
(5)	学生支援	24
(6)	教育環境	26
(7)	学生の受入れ募集	27
(8)	財務	28
(9)	法令等の遵守	29
(10)	社会貢献・地域貢献	30

(1)教育理念・目標

評価項目	評価
1 学校の理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2 学校における職業教育の特色は何か	4
3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4 各学科に教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 本校の基本理念は「豊かな人間性と創造力の育成」「先進的な知識と技術の修得」「開かれた学校」とし、社会の多様なニーズに対応できる人材の育成を目指している。
本校の目的は、学校教育法に基づき「高医療福祉社会を実現する為の担い手である社会福祉、介護福祉、リハビリテーション医療、看護、助産及び保健、福祉、医療のネットワーク化を実現するための医療福祉等の人材を育成」であり、これを実現するための教育目標は、広い視野を持った人間性豊かな介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士等の福祉従事者や、理学療法士、作業療法士、看護師、助産師、歯科衛生士等の医療従事者を育成することである。
- 2 職業教育にふさわしい高度な専門知識、技術教育は無論、社会人として求められる人間性の教育も実践している。(各種行事、自治会行事、担任制によるきめ細やかな指導)
- 3 平成 28 年度より、新たに看護学科通信課程(2 年制)及び介護福祉士実務者研修通信課程(6 ヶ月課程)を開設している。また平成 30 年度には、社会福祉学科通信課程の開設を予定している。職業実践専門課程については、介護福祉学科、社会福祉学科、福祉心理学科に続き、他学科(4 学科)についても平成 27 年度に申請を行い、認定を受けている。
- 4 本校の教育理念、また、各学科の教育目標等は「学習の手引」に記載されており、学生は、入学式前のオリエンテーション、保護者には入学式後に周知徹底している。また、外部の学校関係者にはホームページで公表するなど、あらゆる機会を通じて周知を図っている。
- 5 教育目標、育成人材及び構成する知識、技術、人間性等は、毎年度初めに点検し、また、関連業界や職能団体等からの情報や現場での実習等の機会を通じて、求められる人材要件を確認しつつ、学科運営計画を作成している。

(2)学校運営

評価項目	評価
1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
5 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づき、年度毎の重点項目を定めた「学校運営方針」を作成している。学科長はその学校運営方針に基づき「学科運営計画」を作成している。
- 2 年度毎に「事業計画」を作成し、年度初めの全体会議で提示している。学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づき、理事会の承認を得て年度毎に「事業計画」を策定している。
- 3 本校の組織運営、管理は、学校法人産業教育事業団の理事会、評議会のもと、専門学校においては、校長を責任者とし、学校運営会議を議決機関とし、意思決定を行っている。また、本校の校務分掌組織は明記されている。なお、限られた人員により運営しているため、各員に振り分けられる担当業務も多数となり、各担当業務の合理化と平準化が検討課題である。
- 4 法人本部が所管しており、基準、手続き等を整備して適切に実施している。
- 5 意思決定のプロセスと仕組みは制度化しており、組織図・職務分掌によって業務範囲が示されている。
- 6 日頃より、本校教育に対する理解を進めるとともに、各行事を実施する際には近隣住民の承諾及び参加を求めている。
- 7 ホームページで公開している。
- 8 全学的な情報システム化の取組みはできていない。

(3)教育活動 【福祉心理学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【福祉心理学科】

- 1～3 社会福祉士・精神保健福祉士養成課程のカリキュラムにおいては、厚生労働省で定められた基準に則り、授業実施している。各科目の学習目標を立てている。学習時間も、法令に則り確保している。各学年に応じた各科目の到達目標を設定し、1,2 年次は理論を中心に展開し、3 年次は演習と実習科目を中心にカリキュラムを設定し、4 年次は国家資格受験に向けた編成をしている。
- 4～6 実践的な職業教育の視点から、1,2 年次は関連領域である福祉施設への見学会とボランティアに参加している。3,4 年次においては実習前、実習中、実習後それぞれ実習施設と連携を取り、演習や実習の授業に取り組み、実習報告会を開催しフィードバックを行っている。
- 7 FD 委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。研究授業の実施により、校長をはじめ教員同士の授業見学とフィードバック、総評を行っている。
- 8 学部での教育課程編成委員会を開催し、現場の職員である外部委員を招き、本校における職業実践教育の取り組みについて、意見を聞く機会を設けている。教育現場と実践現場での意見交換の場となっている。
- 9 前期・後期ともに定期試験後の成績認定会議を行い、学則による規定に則り単位認定、進級、卒業認定を行っている。
- 10 国家資格取得のための授業を独自に設け、校内模試の充実を図り、資格取得に必要な知識を習得できるよう努めている。
- 11～12 法令で定められた教員要件に従い、教員を確保している。また、より専門的な分野については、その分野に精通した非常勤講師を確保し、目標達成に向けた授業を行っている。
- 13～14 日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局、社会福祉士会等、職能団体主催の研修に参加し、各教員の自己研鑽に努めている。また、実習先での行事に職員を派遣し、研修を実施している。しかし、時期により研修への参加が流動的である。

(3)教育活動 【介護福祉学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	3
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【介護福祉学科】

- 1 平成 23 年の社会福祉士及び介護福祉士法改正による介護福祉士養成課程のカリキュラム変更にもとない、平成 27 年度より、医療的ケアの授業が加わった。本校においても、厚生労働省で定められた基準に則り、カリキュラム変更を行い、授業を実施している。
- 2 厚生労働省で示された「求められる介護福祉士像」、「資格取得時の到達目標」を意識し、各科目の学習目標を立てている。学習時間も、法令に則り確保している。
- 3 各学年を前期・後期に分け、各科目の到達目標や実習と関連をさせながら、カリキュラム編成している。
- 4 実習での実習施設での職業教育の視点に立ち、演習や介護技術の授業に取り組んでいる。
- 5 学生の多様化に伴い、実習前、実習施設と連携を取り、個別に事前打ち合わせを行っている。そのことにより、学生個々の特性を生かせるような実習内容になるよう努めているが、まだ成果を出し切れない学生もいる。
- 6 実習期間を 1 年次前・後期、2 年次前・後期の 4 期にわけ、学習進捗に合わせた段階的な実習を行っている。
- 7 FD 委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。教員相互の授業見学を実施し、授業のフィードバックを行っている。
- 8 年 2 回、教育課程編成委員会を開催し、外部委員からの意見を聞く機会を設けている。
- 9 前期・後期ともに成績認定会議を行い、学則による規定に則り認定を行っている。
- 1 0 資格取得のための授業を独自に設け、資格取得に必要な知識を習得できるよう努めている。しかし、学生の到達レベルには差が大きく見られ、通常授業だけで一定レベルの到達に遠い学生に対しては、長期休業期間等を利用して、補講を行っている。
- 1 1 厚生労働省で定められた教員要件に従い、教員を確保している。
- 1 2 より専門的な分野については、その分野に精通した非常勤講師を確保し、目標達成に向けた授業を行っている。
- 1 3 介養協や介護福祉士会等、職能団体主催の研修に参加し、各教員の自己研鑽に努めている。また、実習巡回の際、実習先での独自の取り組みについて学習している。
- 1 4 学会への入会、出席等をとおして、職員の能力向上に努めている。

(3)教育活動 【作業療法学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【作業療法学科】

- 1～2 作業療法学科は、学校の理念に基づき教育課程を編成している。また、厚生労働省の認可を受け、その基準を遵守している。と同時に、「職業実践専門課程（文部科学省）」「WFOT（世界作業療法士連盟）認定校」「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定校」の厳格な第三者評価を受け各々認定を受け教育課程の編成とその実施に継続して活かしている。
- 3 カリキュラムは、作業療法学科の教育理念と目標を基礎に、項目1～2の認可・認定基準を満たしたものとなっている。また、カリキュラムの見直しは、教育課程編成委員会等のフィードバックを受け、定期的に見直しを図っている。特に本年度は、専門領域・分野を同じくする教員間の連携をより密にし、体系的な授業を展開する工夫を行った。
- 4 教育課程編成委員会等を活かしながら、保健医療福祉と作業療法士を巡る動向を適宜把握し、学生のキャリア形成の育みを支持するために授業内容を検討する学科会議を定期的に継続開催し

ている。そうした委員会や会議での意見等を踏まえ、各授業開始時、オリエンテーションを実施し、①シラバス②位置付け③目的④到達目標⑤成績評価の方法と項目⑥授業計画等について説明を行っている。また、職業教育を最重視する観点から、学内外の演習・実習の時間数を多く確保し実施している。

- 5 カリキュラムの内容については、教育課程編成委員会において関連分野の業界、病院・施設、非常勤講師等からのフィードバックを反映させている。また、臨床研修でブラッシュアップを続ける学科教員一人ひとりが、臨床での現在の問題と課題や将来のあるべき方向性を学び、カリキュラムに適時継続し活かしている。
- 6 関連法令ならびに第三者評価の基準を遵守し、定期的に臨床実習指導者会議や実習地訪問等を設定する中で、専門的な産学連携の実践教育を継続して行っている。
- 7 FD 委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。「授業アンケート」による教員へのフィードバックを、開講する全ての授業科目で行っている。また、受講学生と担当教員の協働の場である授業の質を上げることを目的とし、公開研究授業を定期的実施し教員間の相互フィードバックの機会を継続し設けている。
- 8 学校関係者評価委員会で、卒業生、関連分野の業界、病院・施設など外部関係者から評価を受け、その結果を積極的に学校運営と職業教育実践に継続して取り入れている。
- 9 成績評価ならびに単位認定は、「学則」と「細則」に従い厳正かつ慎重に行っている。
- 10 資格取得は、学生個々の特長を基礎に、受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施している。また、学科卒業生から、フィードバックを受けることの特別授業を組み入れている。
- 11 「学生一人ひとりのキャリア・デザイン力とキャリア形成の育み」を実現出来る授業展開や学生の個別支援力を学科教員に求めている。そのため、学科教員には、「臨床力」「教育力」「地域貢献力」をその実現のための共有スローガンとし、各々、プロフェッショナルとしての徹底した自己研鑽（修士号、博士号、認定作業療法士、ソーシャルワーク資格等の取得。他、臨床研修と学会での発表、研修会参加等）を積み続けている。学科の最たる特長でありさらなるテーマでもある。
- 12 保健医療福祉と作業療法士ならびに関連専門職の動向を適宜把握しながら、項目11の自己研鑽内容のマネジメントに継続して努めている。
- 13 項目11～12を積極的に進める中で、教員の資質向上に継続して努めている。
- 14 項目11～13を積極的に進める中で、教員の能力開発に努めている。今後、各教員のストレングスをより活かし、学科力の底上げをさらに図ることが継続課題である。

(3)教育活動 【理学療法学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【理学療法学科】

- 1～2 教育理念に沿った教育課程の編成がなされており、修業年限に応じた到達レベルや時間の確保は出来ている。
- 3 必要な技能を習得する為の適正な時間数を定めている。
- 4 他の養成校より実践的な教育を目指しており、学外実習の時間数も十分である。
- 5 関係施設等や業界団体等との連携により定期的に教育課程編成委員会を開催している。
- 6 1年次、3年次、4年次と各学年に応じた実践的な職業教育が行えている。
- 7 FD 委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。これにより、年に数回、校長や他の教員による授業評価が行われている。また学生による授業アンケートが実施され教員にフィードバックされている。
- 8 各実習施設に必ず足を運び、様々な意見を聴取している。また各実習において、指導報告書の中で評定を頂き単位認定の参考にしている。
- 9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっている。
- 10 4年次後期に、資格取得の為の国家試験対策が講じられている。
- 11 臨床経験ならびに人生経験豊富な教員が確保されている。
- 12 現在、認定における教員数は足りているが、今後につながる教員確保のマネジメントを少しずつ行っている。
- 13 一部学内における指導力育成や学外での知識習得の研修は行われている。先端的な知識、技能等を修得するための研修にも参加をしているが、まだ十分とはいえない。
- 14 関係団体等の研修や講習会等の参加はあるものの十分ではない。

(3)教育活動 【看護学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【看護学科】

- 1 教育課程は、理念及び指定規則に則り指導要領に沿って定めている。
- 2 学則、指定規則に則り、学習時間を確保し正当な教育活動を実施している。
- 3 段階的に学習が進められるようカリキュラムを組んでいる。
- 4 講義、演習、実習の効果を踏まえ教育活動している。しかし、多様な学生に効果的な教育を行うためには、更に教育内容、及び方法論に関しての改善が課題である。
- 5 実習施設と定期的に会議を開き、連携している。実習場所が多施設にわたるため、学びの差が出ないように、教員の指導力の向上と共に、更に施設との調整が必要である。また、教育課程編成委員会での意見をカリキュラムに反映できるよう努めている。

- 6 関連施設における実習は、年間を通して各学年で体系的に実施されている。
- 7 **FD** 委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。昨年度よりも、学生のアンケート結果などから教員個々が授業を振り返ることを意識している。しかし学科全体で取り組めるような体制づくりまだ十分でなく課題である。
- 8 会議等で評価を受ける機会はあるが、十分とは言えない。具体的な評価が得られるように体制を整えたい。
- 9 成績評価の基準は明確であり、学則・細則に則り遵守している。
- 10 国家資格取得のため効果的な学習が進められるよう努めている。
- 11 専任教員は12名（内1名休職中）平成29年4月より実習指導教員が5名増加された。
- 12 専任教員及び実習指導員の経験年数が少なく悩みも多い。会議、面接等で話し合う機会は増やしているが、今後もサポートが必要である。
- 13 教員間で話し合い、方法論に関しては協議を重ねている。また、研究授業を通して互いに学ぶ機会を得ている。今後更に、効果的な勉強会や研修を計画していきたい。
- 14 年1回、学科内研修を実施している。昨年度に比べると、外部研修に参加する機会も増えている。今後も学内、学外の研修に参加し教員の能力を高めていきたい。

(3)教育活動 【助産学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	—
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	—
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	2
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 **【助産学科】**

- 1～3 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。助産師国家資格取得に向け、学生の成長について教員間で一貫した考えを持ち、学習の順序性や到達レベルについて確認をしながら教育活動にあたっている。
- 4 授業形態は教授内容に応じて選択し、効果的な教育・指導を行うために教員間の協力体制を整えている。また、学んだ知識を統合し活用するためのシミュレーション学習等を導入し、より実践場面に近い学びができるよう工夫している。
- 6 臨地実習指導者会議において養成所の教育理念・教育目的・教育目標を説明している。実習要項には教育理念からつながる実習目的・実習目標を明記し、臨地実習における学生の学びが保証されるよう、実習方法を計画実施している。
- 7 FD委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。一部科目で学生からの授業評価を実施しており、結果に基づき授業の改善を心がけている。
- 9 評価基準および単位認定は「学則」「細則」に則り厳正に行っている。
- 10 入学の目的である国家資格取得のために段階的な年間計画を立てて実施している。入学直後から学生の能力把握と、学習方法の相談、モチベーション管理などに努めている。
- 11 常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。教員間の関係を良好に保ち、離職しないような組織づくりを心がけている。
- 12 周辺の業界の情報収集や人脈の拡大に努めている。しかし数年後を見据えた長期的なマネジメント計画はできていない。
- 13 職能団体の実施する研修に参加し、最新の知見に触れる機会を作っている。
- 14 外部の研修に参加した際はその学びを学科全体で共有している。

(3)教育活動 【歯科衛生学科】

評価項目	評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	3
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	3
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13 関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【歯科衛生学科】

- 1 学校の教育理念に基づき教育課程を編成している。これは歯科衛生士養成所学校指定規則に従って編成し、厚生労働省の認可を受けそれを遵守している。
- 2 3年間で就業する学科である。1年次から3年次まで修得する科目、到達目標を明らかにし編成している。今後も外部との連携を密に実践的職業教育をしていく。
- 3 カリキュラムは教育理念・教育目的・教育目標を受けて編成しており、卒業時目指すべき学生像、職業実践者をイメージさせている。さらにそれは指定規則に従ったものである。
- 4 キャリア教育3コマ6時間をカリキュラムに反映させている。職業実践的カリキュラムとしている。演習・実習・学外学習を行っている。またそれらはシラバスで学生に配布提示している。

- 5 カリキュラム等は教育編成委員会に於いて開示し評価を受け検討している。講義については実習施設、その他の施設に対して講義依頼している。
- 6 臨地臨床実習は診療所、福祉施設、大学病院、小学校等を実習を行っている。学生はそこで評価を受けながら知識・技術・態度を身に付けている。教員も企業指導者に対して意見交換等を行いながら連携を行っている。
- 7 学生による授業評価は「授業アンケート」を全教科行っている。
FD 委員会を立ち上げ、委員会主導のもと、研究授業を恒常的に実施している。授業運営について教員同士の授業参観、評価を行い発展させている。
- 8 教育編成委員会に於いて卒業生、関連分野の業界の委員に対して情報を公開しさまざまな視点で評価され改善をしている。
- 9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準に関して学則等に明確学生に提示している。それに沿って評価した資料によって会議を開催し学校長の認定を受けている
- 10 資格取得のための補講・模擬試験・その他の対策を行い3年生全員の国家試験受験した学生全員の合格を目標としている。
- 11 教員の確保については指定規則の教員資格に適合した人材確保し、教員の育成に努めている。また非常勤講師についても実践の場で活躍している人材を確保している。
- 12 教員確保については常に広く情報収集している。
- 13 学内公開授業を実施し資質向上のための取り組みをしている。
- 14 関係団体・機関の実施する研修、講習会などに参加している。

(4)学修成果 【福祉心理学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	4
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【福祉心理学科】

- 1 教務と学生部就職課が連携を取り、学生の希望や特性による個別指導を行っている。
- 2 毎年、社会福祉士・精神保健福祉士とも4年制専門学校の中で全国的に高い合格率を保ち、成果を出していたが、社会福祉士の合格率が下がっている。両資格の合格率の向上のため、学生の個別の課題の設定等きめ細かい指導を行っている。
- 3 担任による前期・後期の定期的な個人面談の実施や、遅刻欠席に対する確認やフォローを行ったりして、退学を防ぐよう努力している。例年、精神面において不安を抱えている学生がいるので特にきめ細かく指導を行っている。
- 4～5 卒業後も、就職施設や卒業生と連絡を取り、卒業後の動向を把握している。卒業後の悩みやキャリアアップに対して個別的に相談を受けている。同窓会総会を年1回開催しているものの参加者は多くなく、卒後教育に向けた取り組みが不十分なので、同窓会と連携していく。

(4)学修成果 【介護福祉学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	2
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【介護福祉学科】

- 1 教務と学生部就職課が連携を取り、学生の希望や特性による個別指導を行っている。
- 2 介護協主催の卒業共通試験において、全国平均点を上回るよう指導を行い、成果を出している。
- 3 担任による個人面談を行ったり、欠席に対する確認やフォローを行ったりして、退学を防ぐよう努力しているが、1年次における退学率が増加してしまった。
- 4 実習施設での卒業生の動向については把握しているが、実習以外の施設や他分野における卒業生の動向については把握しきれていない。
- 5 現在の施設の取り組みやキャリアアップの動向を調査し、就職後も役立つ、より実践的な授業を取り入れている。

(4)学修成果 【作業療法学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	4
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【作業療法学科】

- 1 就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生部就職課・学科教員が一体となり目標を達成している。
- 2 作業療法士国家資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を実施している。また、毎年の国家試験問題を分析し出題科目毎の学習課題を明確にした上で国家試験対策を行っている。
- 3 主担・副担の2教員による学年担当制ならびにキャリア・デザイン担当教員を配する中で、学生一人ひとりのキャリア・デザイン力とキャリア形成の育みを支援している。特に、定期的な個別面談等の中で、学生個々の課題とストレングスを明確にすることに重点を置いている。そうした取り組みの中で、引き続き、低い退学率を実現している。
- 4 作業療法学科独自の卒業生の勉強会が、自主的に活動を継続している。勉強会は、卒業生のネットワーク（社会的活躍の把握等々）としても機能し始め、引き続き、学科の大きな特長となっている。
- 5 項目4の活動から得られるフィードバック内容を、学科教育活動の改善に活用している。この活用のさらなる体系化は、今後も継続課題である。

(4)学修成果 【理学療法学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	3
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【理学療法学科】

- 1 十分な就職率が確保されている。
- 2 平成 28 年度は、平成 27 年度に比べ資格取得率が若干向上しており、適切な対応がとれている。
- 3 退学率の低減に対する対策は様々に取られているものの結果としては不十分。学力以外の原因に対する対策の検討が必要である。
- 4 様々なネットワークにより情報が入ってくるため把握可能である。
- 5 就職先が実習先であることが多く、その把握はある程度可能である。しかしその結果を教育活動の改善に上手く活用出来ているかは疑問である。

(4)学修成果 【看護学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	3
3 退学率の低減が図られているか	3
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【看護学科】

- 1 学生の希望通りの就職が出来ている。
- 2 国家試験の合格率は全国平均には及ばず、結果を出せていない現状にある。よって、本年度より国家試験ワーキンググループを立ち上げた。実習終了後、臨床で経験した事象と知識を統合させることを目的に、学生主体の学習会を行っている。毎月学習会の在り方を評価しながら国家試験対策を進めている。また、補講の一部を予備校講師へ依頼し春・夏・冬と計画的に実施する予定である。
- 3 担任制をとっており学習面、生活面、精神面と学生をサポートできるよう努めている。年に数回個別面接も取り入れ、全学生の課題の把握に努めている。しかし、様々な理由で退学を希望する学生はいる。今後も引き続きサポートしていく。
- 4 実習病院に就職した場合、卒業後の評価を知る機会がある。しかし、全体的には情報は少なく課題がある。
- 5 卒業後の情報が少ないため、評価までに至っていない。

(4)学修成果 【助産学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	4
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【助産学科】

- 1 学生の希望を把握しながら、学生部就職課と連携して目標を達成している。
- 2 学生個々の理解力を把握し、国家試験の直前まで必要に応じて個別の支援を実施した。学生を孤立させず、学生同士の助け合いのサイクルも重視したことで全国平均を上回る資格取得率を達成した。
- 3 入学直後から学生一人一人をよく知り、学習意欲や学習継続への影響因子の変化をつぶさにとらえるようにしている。時機を逃さず支援ができるよう教員間での情報交換を重視している。
- 4 就職先での評価、卒後のラダー形成状況について情報交換や調査の実施などができる体制を整え、データ化していく必要を感じる。年2回実施した home coming day では卒後の活動状況を知る上でも有効であったと考える。
- 5 入職後の卒業生の意見を、学科の教育理念・目的・目標と照らして評価し、授業内容・方法の見直しに活用できる体制づくりが必要である。

(4)学修成果 【歯科衛生学科】

評価項目	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	3
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 【歯科衛生学科】

- 1 就職に向けた相談、支援、指導は本人－担任－学生部就職課が一体になって目標達成している。
- 2 資格取得、合格率の向上を目指している。合格率が全国平均に満たない場合その原因等アセスメントしている。
- 3 担任、担当教員と連絡を密にして学生の状況把握に努めている。問題がある学生に対しては、全教員と情報共有し退学・休学・留年の防止に努めている。
学生の家庭環境・学習環境・人間関係等問題を抱えて入学してくる学生が多くその対策について教職員は努力している。
- 4 相談に来校した卒業生に対して支援している。同窓会事務局がある。平成 28 年度には、同窓会を開催し、実習等に関する調査を行い、校内実習に反映させている。
- 5 平成 29 年度より実施予定である。

(5)学生支援

評価項目	評価
1 進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2 学生相談に関する体制は整備されているか	4
3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6 学生の生活環境への支援は行われているか	4
7 保護者と適切に連携しているか	4
8 卒業生への支援体制はあるか	4
9 社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10 高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 就職支援の専門部署として、学生部就職課を配置している。担任と連携し、応募文書の書き方指導や模擬面接といったきめ細かい指導と求人情報の開示等の充実した就職情報によって、学生は納得して受験する就職先を決めている。
- 2 学生の相談については、原則担任または学生相談室の専任の相談員が対応している。また、必要に応じ、学生の状況を保護者に連絡し、家庭と協力した相談、援助を行っているが、様々な理由で、保護者の協力を得にくい環境も年々増えている。
- 3 日本学生支援機構の奨学金や国の教育ローン、県の就学資金制度等の公的機関の奨学金制度、病院の奨学金制度の紹介や案内及び取次事務を積極的に進めている。また、学費に関しては、分納、延納制度や進級、卒業できない場合の学費減免制度を通して支援を行い、柔軟に対応している。
- 4 年1回の健康診断及び各号館の窓口に薬を常備し、保健室を設けている。
- 5 学生の自治会活動及びボランティア活動に対して活動費の補助等支援を行っている。
- 6 アパート、駐車場の紹介を行っている。

- 7 無断欠席や欠席が続くなど、必要に応じて適宜担任が保護者に連絡をしている。特に最近では心理的な問題を抱えている学生も多く、三者面談などを行う場合がある。また、後援会（保護者会）との連携にも力を入れている。
- 8 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職の相談などにも応じており、卒後教育や就職支援も行っている。また、国家試験を取得できなかった学生に対し、対策講座の聴講や図書館の開放などの体制をとっている。
- 9 施設、設備は教育上必要なものは十分対応できるよう備えられている。専門教育に必要な設備、機器の劣化への対応は速やかに行っている。ただし、現場と同じ機材や最新の機器等の入れ替えは十分でない。
- 10 高校からの依頼で模擬授業や進学ガイダンスを積極的に引き受けている。栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会に参加し、高校の教員に情報を提供している。

(6)教育環境

評価項目	評価
1 施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3 防災に対する体制は整備されているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応はもちろんのこと、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。
学習方法、指導方法の多様化が進んでいることから、特に視聴覚、IT 関連の設備・機器については、年間の使用計画と予算に基づいて、毎年、定期的に可能な限り最新のものに更新している。また、マロニエ医療福祉専門学校については、平成 27 年度に図書館を新設し、学習環境の更なる向上を図っている。
- 2 実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。
実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置し、また、定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。
- 3 防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年 1 回実施している。また、消火器・非常ベル等の消防設備については、法令に基づき年に 2 回の点検を実施している。

(7)学生の受入れ募集

評価項目	評価
1 学生募集活動は、適正に行われているか	4
2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3 学納金は妥当なものとなっているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 学生募集が厳しい状況で、定員の充足が難しくなっているが、栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき、志願者の立場で適切、適正な情報の提供を行っている。入学案内書、各種リーフレット、ホームページ等での情報提供については、入学志願者にわかりやすく、興味をもってみてもらえる必要があり、様々な観点から適切性について常に点検している。進学情報誌、新聞、その他媒体等については高校生、社会人の立場を踏まえ、的確に選定し募集広告を行っている。
- 2 学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭、公正に記載している。教育成果についても真実を正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校内ガイダンス等での募集活動においても、正確に情報提供を行っている。
- 3 学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており、妥当なものであると考えている。

(8)財務

評価項目	評価
1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2 予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3 財務について会計監査が適正に行われているか	4
4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題であり、18歳人口の減少や大学全入時代のなか、学生確保は厳しく、法人全体としても厳しい予算編成を強いられているが、一定数の入学者を確保し続けるとともに、退学・除籍などのドロップアウト対策を強化して改善を図り、一定水準の学納金収入を確保できるよう努力していく。
- 2 予算は計画に従って妥当に執行されている。
- 3 会計監査については、法人本部の所管で外部監査・内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。
- 4 財務情報はホームページにて公開している。

(9)法令等の遵守

評価項目	評価
1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4 自己評価結果を公開しているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 本校は、専修学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適正な運営をしている。
教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本に、設置学科に適用される介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、作業療法士、看護師に関する法律等をはじめ、関係する諸法令を遵守している。
- 2 個人情報については「個人情報保護基本方針」「個人情報の保護に関する規則」を定め、継続的に保護を実施している。
- 3 自己点検・自己評価については、実施方法に関する知識不足、評価要員が確保できない等の理由により実施体制の構築が進まず、平成19年度から平成23年度までは、授業アンケートによる授業評価程度であったが、平成24年度より現行のかたちとなった。
- 4 公開している。

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3 地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 シルバー大学校や栃木女子刑務所に講師を派遣している。
- 2 学生のボランティア活動の奨励、支援については、福祉系学科においては実習先からの依頼を始めとして積極的に推進、支援している。しかし、学校に文書により正式に依頼されたボランティアについては、なかなか実態がついてこない。
- 3 介護委託訓練生の受入や、栃木市内地域包括支援センター主催の家族介護教室に講師を派遣している。